

《埼玉協同病院だより》

ふれあい

2013年 No.305

発行：埼玉協同病院
〒333-0831 川口市木曽呂1317
Tel.048-296-4771
Fax.048-296-7182

3

おもな記事●専門医シリーズ②/
第5回肝臓病教室開催のお知らせ
健康マメ知識/連絡バス時刻表

診療科紹介 泌尿器科

90%を超える治療効果!! 最新の機器で治療を行っています

当院泌尿器科は月、水、金、土曜日は2診体制で、火、木曜日は1診体制で診療しています。帝京大学医学部附属病院、獨協医科大学越谷病院の専門医と私(林)が診療にあたっています。診療内容は泌尿器科一般の診察、検査および処置は膀胱鏡、前立腺生検、体外衝撃波結石破碎術、泌尿器科的レントゲン検査(尿道造影、経静脈性腎盂造影)、尿道留置カテーテルの交換です。

その他に尿閉の症例には外来看護師が自己導尿指導(男女)、尿失禁、頻尿の人には骨盤の筋体操の指導も行っています。また、泌尿器科のがんの患者様はできる限り、外来化学療法で治療しています。

尿路結石の治療として体外衝撃波結石破碎はさらに治療効果があがるように、昨年末より最新のドルニエ社の破碎機に変更いたしました。現在まで1000例を超える症例を治療しており、90%を超える治療効果です。前立腺がんは早期診断として経直腸エコー、最新型のMRIで診断精度を上げています。前立腺がんの診断に至った場合は手術、再発時の治療までと万全の体制で対応しています。膀胱がんの症例は経尿道的手術後にBCG膀胱内注入療法、MMC注入療法



林幹純医師と泌尿器科スタッフ

も行っており良好な治療効果です。

毎週火曜日は手術日で、経尿道的手術(前立腺肥大症、膀胱腫瘍)、前立腺全摘出術、腎摘出術、内シャント造設術などが主な手術です。

体外衝撃波結石破碎術、前立腺生検は基本的

には1泊入院です。当院で治療が困難な症例は関連病院である帝京大学医学部附属病院または獨協医科大学越谷病院で治療していただく体制をとっています。

(泌尿器科部長 林 幹純)

被災地支援ボランティア

残されたのは弱者である高齢者 心情は計り知れないものがある

3.11の東北大地震から、何かできることはないかと震災の年の5月、8月に家族でボランティアに行きました。物資の仕分けをしていた際に、ミクシイ(インターネットメール)で呼びかけ合い、不足している物資を分担して持参し



支援に向かう職員一同

たという20代の若者およそ10人が山ほどの新品の物資を持ってきました。それぞれ当日が初対面だったということです。他にも若者が先導に立って被災地を盛り立てている姿が印象的で、復興は思ったより早いかな、と思ったものでした。しかし、昨年12月双葉町避難所の旧騎西高校へ健康相談に行ったときは、残されたのはほとんどが弱者であるご高齢者だということがわかりました。弁当配食も打ち切られたとのこと。お楽しみ会で、福島の地元歌手の方が故郷を想いながら歌っていた曲に皆涙し、心情は計り知れないものがあると感じました。

現在、組合員さんや有志のボランティアさんが震災以降毎月欠かさず東北

の被災地に手弁当のボランティアで訪問に行っています。当院の職員としても、支援物資やカンパを募り、持って行ってもらっています。その行動記録として組合員さんが書かれたものを全職場に配布し、被災地のリアルタイムの状況を分かち合っています。今後も東北の痛みを常に忘れず、励ましあって行ければと思っています。(在宅看護科看護長 高橋恵子)

4月より土曜日の 小児科一般受付を 再開します。

2011年10月より医師体制の都合にて休診していましたが小児科外来は、4月6日より月曜～土曜日まで診療します。

専門医シリーズ ②

外科としてやりがいを感じる仕事

私は、当院に入職して2年半の初期研修を行いました。研修医時代は一日でも早く、多くのことを独り立ちできるようにになりたいと、奮闘していました。しかし実際に担当した方々の治療過程に、自分の知識・医師としての力量がどれだけ反映されているのか、薬が治してくれたのか、患者様の体力で自然に治っていったのか…と、あまり実感できないところが自分の中にもありました。

その点、自分の努力次第で、技術の向上・成長が判断でき、それが当然治療過程に反映されるだろう外科に魅力を感じました。責任が非常に重く、緊急手術や当直などが続く、睡眠不足と闘うこととなりますが、外科としてのやりが

いを感じて、仕事をさせてもらっております。3年目の秋から外科後期研修を始め、消化器・一般外科、呼吸器外科、乳腺外科を中心に経験させていただきました。6年目の2010年に日本外科学会専門医の資格を取得致しました。さらに、サブスペシャリティについて技術を高めるべく、2011年度の1年間、長野県の佐久総合病院、下部消化管外科グループにて外部研修をさせていただき、腹腔鏡下大腸がん手術に関して研鑽を重ねてきました。今後は、鏡視下手術の標準化を目指しつつ、消化器・一般外科分野について、尽力して参りたいと思っております。

外科の世界も日進月歩でありますから、遅れ

日本外科学会専門医・
外科医師
佐野 貴之



ずについて行くために、定期的に学会に参加し、世の中のスタンダードな治療を把握し、実践できるように努めております。また、悪性腫瘍の治療に伴い化学療法(抗がん剤治療)を行う方も非常にたくさんいらっしゃいます。日々新しい薬が開発・臨床応用される中で、標準的な治療を安全に行うためにも、抗がん剤についての見識を確実なものとし、さらにはがん治療認定医の取得についても進めています。今後ともよろしくお願いたします。

マイかると患者図書室

クリニカルインディケーター その2!

クリニカルインディケーターとは、医療の質を定量的に評価する指標のことで、医療の質の良否を客観的に測ることのできる「ものさし」にあたります。今回は、マイかるとの利用状況と患者図書室や健康らいぶらりの利用状況についてです。

当院は、2011年8月より自分のカルテを確認できる「マイかると」の運用を進めてきました。患者様自身の病状や治療の状況・情報を医療者と共有し、療養の主体者として専門家と協力してよりよい治療をすすめていくためのものです。2012年9月には入院中の方にも利用していただけるようになりました。小児科通院中の方は保護者(親権者)の方が登録していただくことでパスワードを発行しています。

図1は、2012年1月からの登録者数(パスワード発行した数、黒棒)とその累計(折れ線)、ひと月の利用数(白棒)です。10月、11月には病院利用委員会や地区支部長会議で呼びかけて登録していただいたことで登録数、利用数とも

増加しました。2011年8月からの登録者の累計は2013年1月末時点で174人になりましたが、まだまだお知らせが行き届いていない状況です。

図2は、患者図書室の利用状況(図書の利用とインターネット利用)、健康らいぶらりに設置してある情報タッチパネルの利用状況です。情報タッチパネルは、多くの方が一度に数ペー

ジ以上ご覧になりますので、10ページあたりの利用数で表しています。説明された病状や検査、手術などの理解の手助けにさせていただくためのものです。患者図書室の利用数は、利用される方に所定の用紙に○をつけていただく方式でカウントしていますが、先月、断面調査したところ、この3~4倍の方が利用されていることがわかりました。(診療情報部)

図1 マイかると登録者数と月あたり利用者数

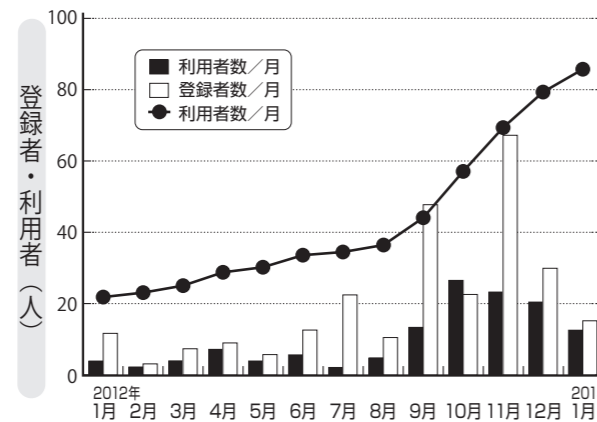
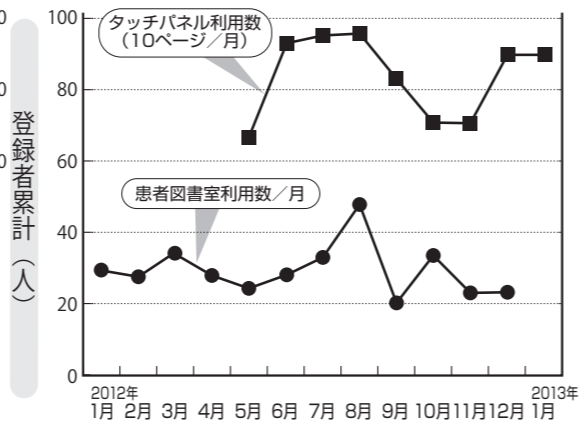


図2 患者図書室と情報タッチパネル利用数



当院と医療連携している

開業医さんのご紹介

32

しみず整形外科クリニック



住所：〒333-0861 川口市柳崎5-3-17 ☎048-262-5413

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○*	—
午後 15:00~19:00	○	○	○	—	○	—	—

※9:00~13:00
【休診日】日曜・祝日



清水 一郎先生

平成22年5月に、整形外科の専門クリニックとして当地にて開院させていただきました。大学病院で約20年間培った経験を活かして、腰痛・膝痛・肩こり・関節痛・神経痛・リウマチ・骨粗しょう症など、運動器のかかりつけ医として、さまざまなお体の悩みの相談を親身に受け止め、解決することのお手伝いをさせていただきますと考えております。

最新の設備機器(物理療法)も導入しておりますので、患者様には安心して治療やリハビリに専念していただいております。また地域の病院と連携して、よりよい医療を提供させていただいております。

埼玉協同病院には、地域の基幹病院として、MRIの検査依頼をはじめさまざまな疾患や手術に対応していただき、大変心強く思っています。今後ともよろしくお願致します。

院長：清水 一郎

※「ふれあい」に掲載の開業医さんを受診される際は、受診前に必ず問い合わせをお願いします。

医療懇談会を振り返って

雪のため3月に延期した支部がありますが、今年も全23支部が医療懇談会を終了する運びとなりました。

寒い中をお集まりいただいた皆様に感謝申し上げます。

テーマである「みんなで考えよう医療福祉生協の理念といのちの章典」について学び、住み慣れた

地域で暮らす私の5年後・10年後を考えてみましょうと呼びかけ話し合われました。

また、参加した医師からは、認知症や乳がんなどさまざまな内容で話しがあり、質疑応答も活発に行われました。

(病院利用委員会)



芝北支部、柳崎支部の医療懇談会では、野口周一医師(前列左から三番目)のお話がありました

第5回

肝臓病教室 開催のお知らせ

第5回肝臓病教室は、「肝硬変」をテーマに開催します。

肝硬変は肝炎から進んだ病状であり、肝硬変まで至ると病状は治癒する可能性はなくなります。

肝臓疾患をもつ患者様に肝硬変について知ってもらい、医療スタッフからの知識提供や同病

患の患者様同士の交流を通じて闘病生活への一助にしていだきたいという目的をこめて企画しました。普段の短い診察時間の中ではじっくりお伝えすることのできない病気に関する正しい知識について、教室を通して患者様に提供し、病状の管理へつなげることができればと考えています。多くの方の参加をお待ちしています。

- 日時：2013年4月20日(土) 10時~12時30分
- 場所：A館2F会議室 ぼかぼか
- 対象者：
 - *肝臓疾患をもつ患者様とご家族
 - *「肝硬変」について関心のある方
- 教室内容：
 - ①医師による講義：肝硬変の病態・検査・治療について (消化器科科長・福本顕史医師)
 - ②薬剤師による講義
 - ③栄養士による講義
 - ④看護師による講義
 - ⑤グループワーク
- 参加費：300円
- 申し込み方法：電話、または専門外来で配布している申し込み用紙にて承ります。定員30名になり次第締め切ります。
- 問い合わせ先：☎048-296-4771 外来医事課 大関 入院医事課 野村

虹の投書箱 だよ

「咳エチケット」の普及

問 本日はMRI検査でお世話になりました。気持ちよくできて良かったです。気になることが1つ。マスク強化のこの頃です。マスクをしていない人のほうが圧倒的に多いですね。咳をしている人でもマスクをしていません。個人のことで難しいとは思いますが、何か良い方法はありませんか。(川口市在住 女性)

答 みなさんに「咳エチケット」という考え方を普及したいと思います。マスクには2つの役割があります。1つは、ウイルス等から自分の身を守る、もう1つは相手にうつさないということです。外来の待合室や病棟で、ポスターやテレビモニターを使ってわかりやすくお知らせします。また、マスクの正しいつけ方を普及するために職員教育をすすめてまいります。 回答者：吉田智恵子(感染管理認定看護師)

協子ちゃんの健康マメ知識 第135回

- 血小板

健康診断で血小板数を測る場合、白血球数や赤血球数と同時に検査することができます。血小板は血管が傷ついた場合に集まり、傷をふさいで出血を止める働きをします。基準値は14.0~37.9万/μlです。血小板数は炎症やストレスでも増加しますが70万/μl以上では血管疾患を疑います。逆に著しく少ない場合は血小板減少性紫斑病などの血管疾患や肝硬変などを疑います。5.0

介護者教室開催のお知らせ

日時 4月2日(火) 午後1時~4時
場所 A館2F会議室 ぼかぼか

看護師、介護士からの実技をまじえた講義となります。介護についての交流も行いたいと考えています。ぜひ、ご参加してください。

問い合わせ先：☎048-296-4771(代) D館5階 介護者教室担当 (白石・坂大・豊田・金澤)

落し物お預かりしています

当院の落し物は、D館1階の総合受付にてお預かりしています。連絡先が確認できる場合は、持ち主の方に電話連絡をしていますが、貴金属類にかんしては1~2週間で最寄りの警察に届けています。その他の落し物は、3ヶ月保管していますので、落し物に心当たりのある方は総合受付にお問合わせください。(外来医事課)



杖・カサの落とし物が多くあります。写真は一部のみです

万/μl以下になると歯茎から出血や鼻血が出やすく、また止まりにくくなります。2.0万/μl以下になると脳出血を起こす危険性があります。喫煙は血小板の粘着および凝集能を高め、血栓を形成しやすくなりますが、これらは動脈硬化を促進するのみならず狭心症や心筋梗塞の直接の原因あるいは引き金となります。

